西田昌司参議院議員のひめゆりの塔をめぐる発言に対する抗議決議

５月３日、那覇市内で開催された「憲法シンポジウム」で登壇した西田昌司参議院議員が、ひめゆりの塔やひめゆり平和祈念資料館の展示内容に関し「歴史の書き換え」などとの発言は、ひめゆり学徒の苛酷な体験を否定し、沖縄の平和の心を踏みにじるものであり看過できない。ひめゆりの塔があり、沖縄戦終えんの地の本市議会は強い憤りをもって抗議する。

８０年前、ここ沖縄は、一般住民を巻き込んだ苛烈極まる凄惨な地上戦で、県民の４人に１人が犠牲となり、２０万人もの多くの尊い命が奪われた。沖縄には筆舌に尽くし難い苦難の歴史がある。ひめゆり平和祈念資料館の展示は、沖縄戦で犠牲となった方々の命の重みと平和の尊さを、沖縄戦の体験者の証言や遺品、資料を基に伝えるものであり、その証言や記録を否定・軽視する発言は、沖縄戦体験者や遺族、そして市民、県民の心を深く傷つけ、尊厳を踏みにじるものであり、断じて容認できない。

５月７日の会見で西田昌司参議院議員は発言を撤回しないと表明。９日の会見では、シンポジウムでの発言は撤回、謝罪はしたものの、「歴史の書き換え」などとの認識は変わらないとする不誠実な対応で強い憤りを禁じ得ない。

ひめゆり平和祈念資料館にはこうある、「太陽の下で大手を振って歩きたい。水が飲みたい、水、水。お母さん、お母さん。学友の声が聞こえます。私たちは、真相を知らずに、戦場へ出て行きました。戦争は、命あるあらゆるものを殺す。むごいものです。私たちは、一人ひとりの体験をとおして知った、戦争の実体を語り続けます」と。西田昌司参議院議員には、ひめゆりの塔、ひめゆり平和祈念資料館を訪れていただき、声なき声に真摯に向き合っていただきたい。

糸満市平和都市宣言の一文には「私たちは、み霊の眠る『平和の杜（もり）』に誓う、みどりの山河を愛し、いのちの尊さ、命どぅ宝を、いつまでも伝えていくと」うたわれている。

本市議会においては平和都市宣言同様に、沖縄戦の教訓を受け継ぎ、次の世代に伝えていくことを高らかに宣言する。西田昌司参議院議員に対し、「二度と戦争を起こしてはならない」とする市民、県民の流した涙の思いに寄り添う姿勢を求める。そして、曖昧な記憶に基づく「歴史の書き換え」などとの認識に固執せず、市民、県民への心の底からの謝罪を強く求める。

以上、決議する。

令和７年５月16日

糸　満　市　議　会

あて先：西田昌司参議院議員